

彙 報

平成三十年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。

各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

〔研究会〕

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

十月十九日（金）

徳重弘志「如意輪観音の名称に関する新出資料」

十一月十六日（金）

木下浩良「高野山金剛三昧院発見の足利宗氏五輪塔」

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年年度から『秘蔵宝鑑』をテキストとして研究会を開催しその研究成果を公表するもの。

※会員

松長有慶、川崎一洋、北川真寛、櫻木 潤、佐藤隆彦、武内孝善、トーマス・ドライトライン、土居夏樹、那須真裕美、藤田光寛、松長恵史、南 昌宏、米田弘仁

※活動実績

『即身成仏義』の研究会を原則として月二回行った。

（発表者及び日程）

佐藤隆彦…四月十二日、四月二十六日、五月十日

南 昌宏…五月十日、五月二十四日、六月十四日、六月二十八日、

七月十二日、七月二十六日、九月二十七日

武内孝善…十月十一日、十月二十五日、十一月八日、十一月二十二日、

米田弘仁…十一月二十二日、十二月六日

※前年度に引き続き、研究会の成果を『密教文化研究所紀要』別冊として以下の内容で発行する。

『即身成仏義』の研究 平成三十一年三月 発行予定

○チベット密教研究会

※趣旨

本研究会は、密教文化研究所専任研究員テンジン・ウセル（チベット仏教ゲルク派ゲシェー・ハランバ〈最高学位〉）を中心にチベット語文献の訳読を進め、本学におけるチベット密教研究を推進することを目的としている。今年度は『ドウンターリンチェンテンワ』の「唯識の章」その他の翻訳・註解を行った。メンバーは以下の通り。

責任者…テンジン・ウセル（ダライ・ラマ法王庁派遣）

研究会員…藤田光寛（本学名誉教授）

乾 龍仁（本学教授）

奥山直司（本学教授）

奥田 剛（チベット仏教サキャ派ケンポ）

※活動実績

四月六日、七月二十日、七月二十七日、八月三日、八月二十一日、八月二十二日、八月二十三日、九月七日、九月二十日、十月三日、十月二十六日、十一月五日、十一月二十六日、十二月十二日、十二月十三日

○南山教学研究会

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「平成三十年度南山教学研究会 活動報告」(本書116頁)を参照願いたい。

○真言教学研究会

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当。活動内容の詳細は「平成三十年度南山教学研究会 活動報告」(本書117頁)を参照願いたい。

○宗学連携事業

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当。問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。活動内容の詳細は「平成三十年度南山教学研究会 活動報告」(本書117頁)を参照願いたい。

○南山進流声明研究会

※本事業に関しては、今年度は開催していない。翌年度以降の活動については未定である。

○中世密教聖教研究会

※本事業に関しては、主に坂口太郎が担当。活動内容の詳細は、「平成三十年度中世聖教研究会 活動報告」(本書115頁)を参照願いたい。

○巡礼遍路研究会 (協賛事業)

※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

※役員

会 長…山陰加春夫(高野山大学名誉教授)
事務局長…柴谷宗叔(密教文化研究所受託研究員)

※会員数

二百名(六月二十四日時点 法人・団体含む)

※活動実績

第五回研究発表会開催

日時…平成三十年六月二十四日(日)

於…高野山大学難波サテライト教室

基調講演

柴谷宗叔「写し霊場と新規霊場」

研究発表

益田 勉「日光の行者道と板東巡礼」

谷口眞梁「番条八十八ヶ所」

村上昭彦「戦前の遍路雑誌にみる写し巡礼の動向」

東近 伸「真念庵境内の四国八十八ヶ所写霊場石仏について」

【講演会】

○人權研究会 特別講演(共催…高野山金剛峯寺社会人権局)

日時…平成三十年七月十八日(水)

於…高野山大学第三会議室

山陰加春夫(本学名誉教授)

「中世高野山金剛峯寺及び同寺領荘園における平等と差別」

日時…平成三十年十二月四日(火)

於…高野山大学第三会議室

源 淳子(世界人權問題研究センター嘱託研究員)

「『女人禁制』を考える―女性はどうのようにみられてきたのか―」

平成三十年度 中世密教聖教研究会の活動報告

研究所員 坂口 太郎

(1) 研究会の趣旨

本研究会は、日本中世の密教に関係する聖教の研究を目的とするものである。高野山大学図書館に収蔵される聖教を中心に、重要な学術的意義を持つ未翻刻の聖教を紹介し、日本中世における密教の歴史的位置を把握することをめざす。本年度は、院政期の心覚が撰述した『別尊要記（鶴林鈔）』第四帖の本文を紹介すべく、メンバーで数度にわたって本文校訂や原稿のチェック作業を行なった。また、代表者の坂口が「解題」を執筆し、『別尊要記』第四帖の史料価値について歴史学の立場から論じた。以上の成果は、『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十二号（平成三十年）に掲載された。

(2) 研究会のメンバー

坂口太郎（高野山大学文学部助教・密教文化研究所兼任研究所員、本研究会幹事）
上野勝之（奈良大学・非常勤講師）
高橋悠介（慶應義塾大学斯道文庫准教授）
橋本正俊（摂南大学外国語学部准教授）
花川真子（京都大学人間・環境学研究所博士後期課程）
藤本孝一（冷泉家時雨亭文庫調査主任）
船田淳一（金城学院大学文学部教授）

(3) 平成三十年度の活動

- 第一回 平成三十年五月十二日（土）～十三日（日）
『別尊要記』第四帖の原稿作成に向けての打合せ、校訂作業、入稿原稿のチェック（会場：高野山大学難波サテライト教室）
- 第二回 平成三十年七月七日（土）～八日（日）
『別尊要記』第四帖の校訂作業、入稿原稿のチェック
「解題」の内容に関する打合せ（会場：高野山大学難波サテライト教室）
- 第三回 平成三十年八月十四日（火）

『別尊要記』第四帖の校訂作業、入稿原稿のチェック

（会場：京都大学人間・環境学研究所）

第四回 平成三十年十二月二十二日（土）

『別尊要記』第四帖の校訂作業、入稿原稿のチェック

（会場：高野山大学難波サテライト教室）

第五回 平成三十一年二月十日（日）

『別尊要記』第四帖の初校に関する校正所見のとりまとめ・チェック

（会場：京都大学人間・環境学研究所）

平成三十年度研究活動報告

専任研究員 徳重弘志

〔研究活動概況〕

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域（「弘法大師の思想とその展開に関する研究」、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事している。

本年度の成果としては、①ブダク写本チベット大蔵経の形成過程の解明、②如意輪観音に関するチベット語訳経典のテキスト校訂と和訳、③ *Guhyanavikāśa* における特異な五相成身観の発見、といった三点が挙げられる。

①に関しては、チベット大蔵経には様々な写本・版本が存在するが、それらのうちのブダク写本に着目し、その特定の経函の末部に存在する「解説文」について調査を行った。その結果、ブダク写本（全一二〇函）のうち、「解説文」が存在するのは、「Egyud（タントラ部）」に属する十六個の経函においてのみであることが判明した。

従来の研究では、ブダク写本には、他の写本・版本には含まれていない複数の経典や多くの異訳が収録されていることから、「全集」（edition）ではなく「収集品」（collection）である可能性が指摘されていたが、当該の写本が編纂され

た経緯を記した資料が発見されていないことから、その説は推測の域を出てはいなかった。この問題に対して、筆者による「解説文」の有無の特定により、ブダク写本は「収集品」であることが明らかになった。

②に関しては、従来の研究では、如意輪観音に関する根本経典は「漢訳」と「漢訳からチベット語訳された重訳」しか残されていないと考えられており、主に「漢訳」に基づいて考察が行われてきた。また先行研究では、「如意輪観音の梵語の名称」が、Cakravati-cintamani と Avalokiteśvara-cintamani-cakravartin のどちらであるかが最大の争点になっている。

幸いにも筆者は、根本経典の「チベット語訳」が、ブダク写本にのみ収録されていることを、このたび発見することができた。そこで、当該の「チベット語訳」全体の校訂テキストおよび和訳を作成した上で、先行研究における争点となっていた「如意輪観音の梵語の名称」について検討をおこなった。その結果、当該の「チベット語訳」における「根本ダラニ」に、Cakravati-cintamani という語句が用いられていることが判明した。そのため、「如意輪観音の梵語の名称」が Cakravati-cintamani である蓋然性がさらに高まった。

③に関しては、中期密教経典である *Gūyuanitika* (全五章) では、その第一章と第三章に五相成身観が説かれている。今回着目したのは、第三章における五相成身観に、性的な要素が組み込まれているという点である。この特徴は、当該の経典よりも時代的に先行する『真実撰経』(初会金剛頂経) や『金剛頂タントラ』には見られない。

先行研究では、中期密教における五相成身観の形態と、後期密教におけるその発展形に関しては、詳細に検討が行われている。しかし、その過渡期における五相成身観の形態に関しては、未解明な点が多く残されていた。この問題に対して、筆者による *Gūyuanitika* の研究により、五相成身観に性的な要素がどのように導入され始めたのかが解明された。

【研究発表】

- ・「ブダク写本チベット大蔵經における経函末部の解説文について」、密教研究学会術大会、七月十三日(金)、於 高野山大学。
- ・「如意輪観音の名称について」、高野山大学密教文化研究所研究会、

十月十九日(金)、於 高野山大学。

- ・「*Gūyuanitika* 第三章における五相成身観について」、日本密教学会第五十一回学術大会、十一月九日(金)、於 種智院大学。

【論文】

- ・「ブダク写本チベット大蔵經における経函末部の解説文について」、『密教文化』第二四二号(掲載予定)。
- ・「聖なる観自在の如意宝珠」のチベット語訳校訂テキストおよび和訳——如意輪観音の名称に関する新出資料——、『密教文化研究所紀要』第三二二号。
- ・「*Gūyuanitika* 第三章における五相成身観について」、『密教学研究』第五一号。

【書評】

- ・「北村太道・タントラ仏教研究会訳『全訳 降三世大儀軌王／同ムディタコーシャ註釈』(『金剛頂経』系密教原典研究叢刊三)」、『密教学研究』第五一号。

平成三十年代 南山教学研究会活動報告

委託研究員 北川真寛

【研究活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させ、平成三十年代は、次のような活動を実施している。

- ① 南山の論義書の輪読会
 - ② 論義に関する調査・研究による研究発表と学術雑誌への投稿
 - ③ 南山・智山・豊山による論義研究会
 - ④ 高野山勸学会への協力
- i 勸学会における講義の実施・聴聞

ii 勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

⑤ 山内論義で用いられる論義資料の調査と再治・増補

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後さらさらにこれらの活動を進めていく。

参加者…土居夏樹 兼任研究所員・高野山大学准教授

北川真寛 委託研究員(事務局)

高柳健太郎 受託研究員

(以上、輪読会発表担当者)

南 昌宏 高野山大学教授

中原慈良 委託研究員

中西雄泰 高野山引撰院

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山本願院

安田弘明 高野山親王院

山本昌芳 高野山大学大学院生

その他、大学院生・大学生など

【輪読会の開催】

・十月二十六日(金) 一五時～一六時三〇分

土居夏樹 「六大仏形」

・一月一日(木) 一五時～一六時三〇分

高柳健太郎 「六大仏形―再考」

・一月二十四日(木) 一五時～一六時三〇分

北川真寛 「八葉四隅」

【研究発表・論文】

・七月十三日(金) 密教研究会学術大会

北川真寛 「二門普門について―論義書を中心に」

・十一月一日(土) 日本密教学会学術大会

土居夏樹 「六大仏形」について

【真言教学研究会】

・五月三十一日(木) 一五時～一七時 於高野山東京別院

講演会「印融法印の足跡と事績」

講師…遠藤廣昭(駒澤大学文学部講師)

・十一月一日(土) 一四時三〇分～一七時 於智積院

「三種即身成仏」

発表者…土居夏樹(高野山大学准教授)

別所弘淳(智山伝法院常勤研究員)

野々部利生(真言宗豊山派総合研究院宗学研究所准研究員)

・三月二十九日(金) 一四時～一七時 於大正大学総合仏教研究所

「宿善有無」

発表者…山口史恭(大正大学非常勤講師)

林山まゆり(早稲田大学本庄高等学院非常勤講師)

小宮俊海(智山伝法院常勤研究員)

【宗学連携事業】

・勸学会の期間中に、勸学会出仕者に対して講義を行った(高野山の学道の歴史、

『釈摩訶衍論』について)。

・『釈摩訶衍論』三下半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデー

タ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打

集』の誤植や誤りを校訂し、勸学会実修に使用。

・問講の謂立を集成した『法談論議要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に収められた

宗・釈論題の再治・増補を行い、現在も続けられている問講の充実に資する資料の作成

を目指して活動している。そのため高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、『法

談論義拾葉集―宗義篇―』として宝性院版・無量壽院版・付録の三冊を出版した。

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関しては高野

山山内住職と共同で活動している。

密教文化研究所構成員名簿(平成三十一年三月現在)

○所長

佐藤隆彦(本学教授)

○顧問

松長有慶(本学名誉教授)

○委託研究員

川崎一洋(本学非常勤講師)

北川真寛(本学非常勤講師)

武内孝善(本学名誉教授)

中原慈良(本学非常勤講師)

那須真裕美(種智院大学非常勤講師)

米田弘仁(本学非常勤講師)

○専従研究所員

佐藤隆彦(所長兼務)

○兼任研究所員

奥山直司(本学教授)

坂口太郎(本学助教)

櫻木 潤(本学助教)

土居夏樹(本学准教授)

トーマス・ドライトライン(本学教授)

松長恵史(本学教授)

南 昌宏(本学教授)

○専任研究員

徳重弘志(本学非常勤講師)

テンジン・ウセル(本学非常勤講師)

○受託研究員

池本裕行

大柴清圓(本学非常勤講師)

蒲池和憲(随心院小野講伝所研究員)

木下浩良(本学総合学術機構課長)

静 春樹(本学非常勤講師)

柴谷宗叔(巡礼遍路研究会事務局長)

高柳健太郎(本学非常勤講師)

○研究所事務室

木下浩良

小南友紀

波多野智人

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

（1）研究所長

（2）専従研究所員

（3）「紀要」編集担当者

2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

（1）「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。

（2）「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成14年5月22日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

（1）研究所長

（2）研究所員

（3）研究員

（4）編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

中世密教聖教研究会（幹事…坂口太郎）
木下浩良 密教文化研究所受託研究員
池本裕行 密教文化研究所受託研究員
徳重弘志 密教文化研究所専任研究員
静 春樹 密教文化研究所受託研究員

編集後記（所長）

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十二号をお届け致します。
一つの研究会と四人の研究員による論考は、本年度の密教文化研究所の研究
果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願
い申し上げます。

○本年度は、研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、中世密教聖
教研究会といった各種研究会が活発に活動した一年となりました。その内、弘
法大師著作研究会の研究成果を、『密教文化研究所紀要』別冊として刊行し、
教学の継承と普及、発展に向けて、一歩前進した年とも位置づけております。

○更に、高野山金剛峯寺社会人権局との共催による特別講演を開催し、人権に対
する理解を深めるための活動を、歴史的・社会的観点から行いました。

○文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に基づく、「高野山アーカイブ」
などの作成により、デジタルにおける研究支援を、密教など本学が得意とする
分野で活発に進めております。

○今後とも、密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げま
す。



高野山大学密教文化研究所紀要 第三十二号

平成三十一年三月二十一日 印刷
平成三十一年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学
電話（〇七三六）五六―三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五一三
電話（〇七三）四八三―五二二 千六四二―〇〇一七